

サワラノアシタ、ミエテキタ？



佐原のあした PROJECT

実践録 2022-2024



サワラノアシタ、ミエテキタ？



発行日 2025年8月
発行者 株式会社エヌアイティ
企画編集：関内イノベーションイニシアティブ株式会社
編集：あらいきよてる・木村郁子
デザイン：Tane't 戸原貴子

Sawara-no-ashita

佐原のあした PROJECT

イントロ



選択テーマ型を導入し
香取全体
(佐原、小見川、栗源、山田)
の課題に取り組んだ



香取市は、佐原市、小見川町、山田町、栗源町の1市3町の自治体が2006年に合併して誕生しました。東国三社の一つ「香取神宮」や、花菖蒲の名所「水郷佐原アヤメパーク」など、佐原中心部以外にも魅力あるスポットが多数存在しています。2年目から「選択テーマ型」を導入し、山田地区、栗源地区といった農業が盛んな地域や、利根川以北など、香取広域圏をテーマとしたプラン創発にも注力しています。

主催

株式会社 エヌアイデイ (NID)

1967年に佐原で創業したITソリューション全般を提供する上場企業です。ソフトウェア開発、システムマネジメント、先端技術領域などを手がけ、安定した経営基盤を築き、創業の地佐原での地域貢献にも力をいれています。

佐原信用金庫

1929年創業、佐原に本店を構え、16店舗を展開する協同組織の金融機関です。地域の主要産業である「農業の支援」や「観光振興」など、地域経済の活性化の事業に数多く取り組んでおり、持続的発展に広く貢献しています。

企画・運営

関内イノベーションイニシアティブ株式会社 (Kii)

佐原はどんな町？

歴史的町並み

千葉県北東部に位置する香取市佐原(さわら)は、歴史と文化に彩られた町です。江戸中期より利根川廻船の中継地として栄え、町の中心を流れる小野川沿いには、米や醸造品の商いで財を成した商家が並び、往時の繁栄をしのばせます。1996年、佐原の歴史的町並みは関東で初めて国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



水面からの風景

小野川観光船からは、たおやかに揺れる柳越しに商家の町並を眺めることができます。祭禮時期、水面に映る山車の提灯の明かりは幻想的で格別です。



佐原の大祭

江戸期、商人自治の町として栄えた佐原は、大店を中心に組織された惣による夏の八坂神社の祇園祭りと秋の諏訪神社の秋祭りが執り行われるようになりました。この2つの祭りは「佐原の大祭」として国の重要無形民俗文化財に指定されると共にユネスコ無形文化遺産に登録されています。



江戸優り(えどまさり)佐原

佐原は、江戸との交易により取り入れた江戸の文化を独自の文化に昇華させました。江戸期には「お江戸見たけりや佐原へござれ佐原本町江戸優り」と戯れ歌が謡われる程発展した佐原の文化は、大祭における佐原囃子、天文・地理学者である伊能忠敬にも伺い知ることができます。



佐原のあした PROJECT のはじまり

佐原のあしたPROJECTは、地域を元気にするアイデアをみんなで考え、コンテストで発表、そしてアイデアをアイデアのままで終わらせず実践することまでがワンセットになった一風変わったプログラムです。「地域の未来はその一歩から」をキャッチフレーズに、佐原で何かコトを起こしたい、新たな一歩を踏み出す若者を応援してきました。

若者が地域で思いっきりチャレンジする場が意外に少ないと思いませんか？

そして誰も最初の一歩を踏み出すのは不安なもの…

新たな一歩はこの「江戸優り佐原」で、私たちと一緒に踏み出してほしい、そういう場を創っていきたい、という熱い想いを持って、このプロジェクトを立ち上げました。

佐原のあしたPROJECTは、地域発の若手リーダー人材育成プログラムとして、新たな枠組みを創っていきます。2022年から始まったこのチャレンジ。それ自体も不安だらけの小さな一歩でした。エヌアイデイ社内の会議室で生まれたアイデアが、外へ飛び出して、ときには失敗しながらも徐々に仲間の輪を広げてきました。そして今、チャレンジする若者を応援する地域ぐるみの取り組みになっています。

冊子発行にあたって

この冊子では修了生の声や講座から生まれたプロジェクトの今を取材して3年間の軌跡をまとめました。3年の積みかさねを経て、佐原のあしたPROJECTは地域課題に挑む人材のプラットフォームに成長しています。地域に芽吹く未来のタネを感じていただけたら幸いです。

取組みと広がり

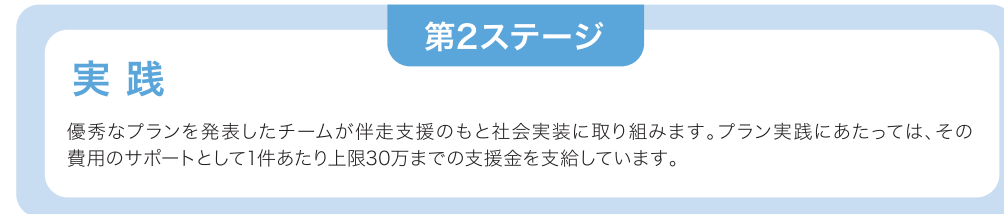
これまでの

実施内容について

第1ステージでは、地域の実情やプランニングを幅広く学びながら、実践プランを磨き上げます。優秀なプランを発表したチームは、第2ステージへ進み、佐原が創業の地であるエヌアイデイ及び佐原信用金庫の伴走支援のもと、自らのプランの実践に挑戦します。



優秀なプランが第2ステージへ進みます



第一期（2022年）

3月 エヌアイデイとKiiで事前調査開始

5月 トークライブ開催

甘味処ギャラリー「いなえ」からZoomによるオンライン配信＆YouTubeによるアーカイブ配信。



7月～10月 講座を実施

初年度は、ローカルビジネスの立ち上げを意識した事業計画書の書き方や、デジタルの活用といった分野の講義が充実していました。また新型コロナウイルスの影響をもっとも受けていた時期であり、オンライン配信やハイブリッドでの受講などに注力しました。



ホステルコエド佐原、元タクシー会社の建物、丸惣キッチン屋上など、佐原のさまざまなスペースを有効活用した実践プロジェクトが複数生まれました！



阿部 学

株式会社エヌアイデイ
CX事業戦略部 開発戦略室
このプロジェクトの主催者として、佐原を盛り上げる施策を実践しています。



あらい きよてる

関内イノベーションイニシアティブ株式会社
横浜を拠点に全国でまちづくり事業を展開中。企画や事業の相談、ファシリテーションを中心に関わっています。



第二期（2023年）

3月 佐原信用金庫が主催者として参画

課題テーマが出されるようになり、受講生は自由テーマ型コースと選択テーマ型コースを選べるようになる。

7月～10月 講座を実施

佐原信用金庫が参画し選択テーマ型コースができたことで、地域の事業者とのつながりが強固なものになりました。第1期の受講生だった山形佳樹さんがエヌアイデイに就職し、佐原のあしたPROJECTの運営メンバーとなったことや、第1期のOBOGの継続参加などで関係者の層が徐々に広がりました。また2022年末にオープンした「みんなの賑わい交流拠点コンパス」の一部利用も開始しました。



佐原信用金庫さんが加わり、個別相談会が充実！



▲コンパス賑わい商店街マルシェにもブースを出店し第1期の受講生の皆さんと共にPR



千葉工業大学チームの作ったマルシェ台がタ涼みイベントで大活躍。



3月 キックオフイベントを開催

「みんなの賑わい交流拠点コンパス」1階にて公開型キックオフイベントを初開催。その後も講座の拠点として活用しました。

7月～10月 講座を実施

地域の関係性が醸成され、高校生が初受講。また参加者も周辺自治体に広がりました。キャッチフレーズを「地域の未来はその一歩から」に一新。公開型キックオフイベントの開催、講義や発表会の自由観覧、町中ポスター掲示を実施するなど、認知度アップを目指しました。



ブルースタジオの大島芳彦さんが初回講座に登壇。最終発表会にも参加。

講座期間には香取エリアの肉、米、野菜、果物、醤油など地場の食材を使ったBBQも！

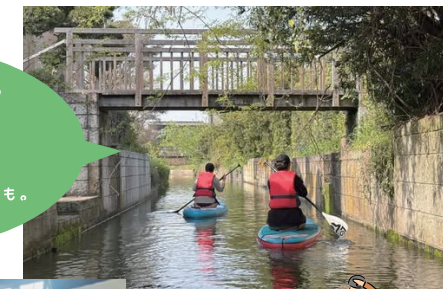


11月 拡張プログラムを実施

講座終了後に相談会・現地見学ツアー・実践者交流会を実施。



「いたこミズベデザイン」とのコラボで、SUP体験などのアクティビティが活発に。堀HOUSEさんでの実践者交流会＆現地見学ツアーも。



▲最終発表会の様子



小さくスタートした佐原のあしたPROJECT。3年経ち仲間が増え、応援の輪が地域に広がってきていることを実感しています。講座やイベントは全て公開。ふらっと立ち寄った地元の方から、「面白いね」「応援していますよ」と嬉しいお声かけをいただくことも！！

第三期（2024年）



成果

三期の

第一期

受賞チーム

デジタル賞

「SNS/Web メディア×地域ブランディング」小林崇晃さん
ここでしか得られない地域情報を集めたサイトの構築。

ローカル賞

「佐原、サウナタウン化計画」chill in SAWARA(安住真寛さん・山中庸平さん)
佐原ならではのサウナ体験の提供。

ユニーク賞①

「あおぞら・にほんご～にほんご×香取で楽しもう～」やさしいところ(小川美香さん・杉田浩二さん)
在住外国人を対象としたやさしい日本語を使った交流イベントの開催。

ユニーク賞②

「みんなでつくる佐原マルシェ～コミュニティの形成、佐原の活性化を目指して～」
千葉工業大学(宮内優さん・内藤大生さん・丸山華奈さん・園田和花子さん)
オリジナル屋台によるマルシェイベントの開催。

ユニーク賞③

「My Garage 佐原」阿部高真さん
佐原で古い車好きが集まれるガレージを作る。

佐原のあした特別賞

「消費者直接販売を通じたカッコイイ農家づくり」大竹珠央さん
農家のECサイト構築を支援する。さわら町屋館前のマルシェにて野菜販売も。



サウナタウン化計画



みんなでつくる佐原マルシェ

第二期

選択テーマ型コースの内容

- ① 小規模の観光業・飲食業のCRM改善(協力:地元飲食店)
- ② 訪問サービス利用者に『贅沢なひと時』を(協力:訪問理美容)
- ③ 香取市利根川以北の観光

受賞チーム

アヤメ賞

【選択型】「高齢者生活支援サービス「ふれ愛」の課題解決による利用者拡大」田中琢也さん
地域で介護タクシーを運営する事業者を支援するプラン。

アジサイ賞

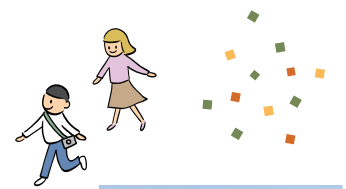
【選択型】香取市利根川以北の観光「水郷十二橋田んぼのがっこうプロジェクト」
増田直也さん
地域資源である農業を教育コンテンツとした「田んぼのがっこう」の構想プラン。

コスモス賞

小野川沿いの活用「佐原あるき」武田充さん
佐原の観光エリアでの滞在時間を伸ばし観光体験を向上させるためのストリートファニチャーの提案。

ハス賞

地元の名物をつくる「すいぞうの町佐原～希少ホルモンがスポットライトを浴びるまで～」
君のすいぞうを食べ隊(今泉麻美子さん・鈴木奈保子さん・大里江里奈さん)
佐原地域で愛されつつも認知度が低い「すい臓」を地域名物としてプロモーションしていく提案。



田んぼのがっこう



武田充さんと田んぼのがっこうの合同イベント



すいぞうプロジェクト

第三期

選択テーマ型コースの内容

- ① 利根川の向こうも香取市だとPRする
- ② 小見川(善光寺)の『腹切り様』の物語を観光コンテンツに
- ③ 事業価値を実現する訪問看護マニュアルと共有ツールづくり
- ④ オープンしたての古民家カフェの庭づくり
- ⑤ 香炉形顔面付土器をデジタルキャラにして、まほろばの里田園空間博物館をPR
- ⑥ スローシティ/スローフードで佐原を盛り上げる

受賞チーム

アヤメ賞

【選択型】「かとり再発見(仮) 香取埋蔵コンテンツ発掘&観光導線創出プロジェクト」
香取サブカル観光PR課(稲村美月さん・奥岳洋子さん)
地域で伝わる伝承のアニメ化と、コンテンツのカプセルトイ商品化。

アジサイ賞

【選択型】「発酵アンテナショップ kamoshi-dokoro を運営したい!」
チームYYTプロジェクト(磯島武史さん・金澤佑泉さん・境悠作さん)
香取地域の発酵食品が試せるポップアップストアと、滞在型観光コンテンツの発掘。

フジ賞

「ハイスクールロックでエモーション×ローカル×コミュニケーション」宮野悠里さん
地元の高校生バンドが地域で発表する機会を創出するプロジェクト。

つつじ賞

【選択型】「食べて感じる香取 一香取をまるっと感じる香取丼」久保田咲音さん
香取市自慢の産品と発酵食品を使ったご当地丼の提案。



チームYYTプロジェクト



ハイスクールロック

参加人数

のべ81名

受賞者数

14組

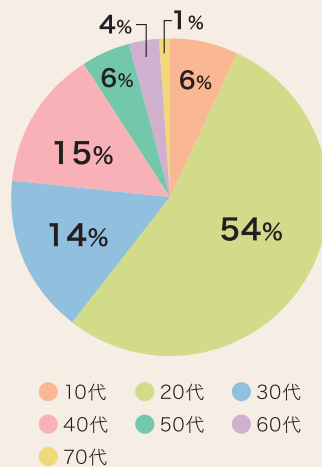
うち選択テーマ型

5組

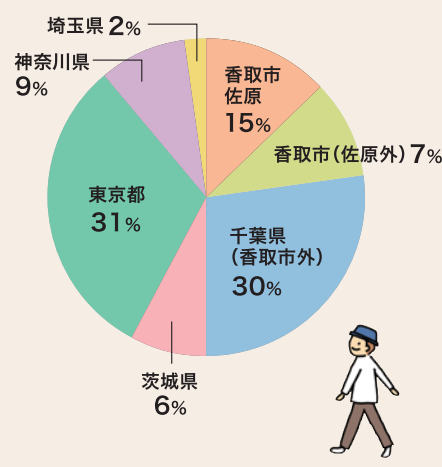
うち自由テーマ型

9組

参加者年齢



居住エリア



参加者職業



登壇ゲスト・コメンテーターの人数

第一期 12名 / 第二期 13名 / 第三期 15名

<登壇者> 肩書きは当時

柳堀裕太さん(一般社団法人オンラア未来会議 代表理事)、田島則行さん(千葉工業大学創造工学部建築学科 准教授)
久保健治さん(特定非営利活動法人 佐原アカデミア)、野田恒雄さん(株式会社 AND150 代表取締役)
竹林一さん(京都大学経営管理大学院 客員教授)、佐藤穂奈美さん(株式会社Coelacanth代表取締役)
治田友香(関内イノベーションイニシアティブ代表取締役)、大島芳彦さん(株式会社ブルースタジオ専務取締役)、他多数

広報実績

LPページビュー(PV数)6442 / プレスリリース 7件 / インスタフォロワー 454 / メディア掲載数 10件



佐原の あしたな 人

受講生インタビュー

佐原のあしたからさまざまな取り組みが生まれました



「教える・学ぶ」を超えて
ともに生きるための挑戦

あおぞら・にほんご
にほんご×香取で楽しもう！
小川 美香さん



第1期受講生

香取市で生まれ育った私は、大学進学後に県外へ出て、さまざまな土地を転々としてきました。結婚を機に再び香取へ戻ってきたとき、これまでの経験を何か地域に還元できないかと考えていました。そんなとき偶然見つけたのが佐原のあしたPROJECTのチラシ。ビジネスコンテストかと思いましたが「佐原が大好きな人」「何かことを起こしたい人」という言葉に押され、締切後にもかかわらず申し込みをしました。

プロジェクトに参加して最も大きな気づきは、自分は香取市の外国につながる人たちの名前を誰も知らない、という現実でした。共に暮らしているつもりでも、実際には何も見えていな



かった。私は日本語教師ですが、日本語学校の画一的な評価や形式的な教育に違和感を抱いてきました。そのため「教える・学ぶ」を超えて、今このまちで生きる人と文化の関係を育む場をつくりたい。「食を通じた交流」を実現したい。その思いから始めたのが「あおぞら・にほんご」です。

今では外国につながる人たちが主体的に「次はこれをやりたい!」と言ってくれるようになり、小さな自己実現の場として、活動は広がり始めています。ただ、助成金は限りがあり、持続可能な仕組みを考える時期にきています。「生きがい」と「なりわい」の間で模索を続ける中、「今こそ再び探究し、鍛え直す時」と、第4期に再挑戦しています。



挨拶からはじめよう
丁寧な関係づくりが肝になる

株式会社スイゴウナウ「サポーター」
香取 尚徳さん
越湖 麻依子さん



第1期受講生

「最初は、“人が足りないから出てよ”って誘われたのがきっかけだったんです。でも、なんか面白そうって思って参加してみたら、どんどん深く関わるようになって。」

「自分も最初はそんなにがっつり関わるつもりじゃなかったけど、佐原の歴史や文化を知るうちに、ここで何かやるには、まずは知ることが大事だなって。」

「久保健治先生の講義、“佐原の基礎教養”みたいで、特にコモディティ化の話が面白かった。自分がやるうとしていたことに、ズレがなかったと気づきました。」

「講義もそうですが、結局“挨拶”とか“地域の人とちゃんと話すこと”が一番大切。アイデアや企画よりも、最初は“誰と一緒にやるか”を考えるべきかと。」

「業務で様々なイベントの企画運営を請け負っているうちに、気づいたら地元の人に“今度これやるんだけど”って声をかけられるように。そういう人が増えると、自然と場ができていく。」

「それは“関係性”を築いてきたからこそ。佐原はちょっと“冷たい”って言われることもあるけど、それは最初の一步が難しいだけで、関係ができればすごくあったかい。」

「若い人や外から来た人が挑戦できる場って、関係づくりができれば、案外たくさんある。そこを丁寧に積み上げてきたから、今がありますね。」

「そういう人を増やすことが、地域の力になるんだと思います。」



佐原を照らす
外のまなざしに賭けてみたい

株式会社シャンフィールド「サポーター」
菅井 政幸さん



最初に佐原のあしたPROJECTに関わったのは、「何かやろうとしている人と出会えたら」という気持ちからでした。当時、自分は地元の工務店を辞め「事業を自分でもやろう」という思いは抱いていましたが、観光地の目線で改めて佐原を歩いてみたとき、どこか中途半端さを感じ、「ここで事業を立ち上げるのは難しいのでは」と感じました。ただ、自分が感じる限界はあくまで主観であって、他の人には違う視点があるかもしれない。だから「0→1」を作る人がいたら応援したいと考えるようになりました。

実際にプロジェクトに関わって印象的だったのは、「地元以上に佐原を好きな人が集まっている」ことでした。

地元の人には見えにくい価値や可能性を、外からの参加者が照らしてくれて、自虐的になりがちな空気をポジティブに変えてくれる。僕自身は、ビジネスとして成り立つかどうかを重視していて、サポーターとしての資金提供だけでなく、山や倉庫といった資源も協力できるものはしたい。それが佐原の価値を上げることにできれば、将来自分にも返ってくるかもしれない。だからこそ、実益と地域貢献の両立を目指しています。

今後は、参加者同士がもっと混ざり合える仕組みがあるといいですね。自由に語れる時間や空間、対話から生まれる化学反応が、次の一步を生むと思います。

第1期受講生



とにかく楽しくて
人生が豊かになる講座です

佐原ストリートファニチャー
プロジェクト
武田 充さん

僕は佐原出身で、大学では建築を学び、卒業設計でも佐原がテーマでした。佐原のまちがどうすればもっと良くなるのか、楽しい場所になっていくのか、ずっと心のどこかで考えていたのですが、なかなか行動に移せませんでした。そんなとき、Kiiのあらいきよてるさんとの共通の知人からDMでこのプロジェクトを知り、ようやく一歩を踏み出すことができました。参加して驚いたのは、自分と同じように佐原のことを想っている人がこんなに沢山いるんだということ。とにかく楽しかったですよ。講義では、久保健治先生から佐原の歴史や文化を構造的に学ぶ機会があり、田島則行先生の実践的なまちづくりの視点も学べて、本当に刺激的でした。

このプロジェクトには3期連続で参加していますが、毎回違う人と出会い、それぞれの視点に触れることで、自分の考えもどんどん広がっていきます。正直まだやりたいことと現実の間にはギャップもありますが、もっと深く地域に関わって、仲間と一緒に佐原を動かしていく存在になりたいと思っています。佐原のあしたPROJECTは、年齢や立場を超えて話せる場であり、僕にとっては人生を豊かにしてくれる大切な時間です。何といってもみんなめっちゃいい人なんで！今後は、後輩の相談にも乗りながらチーム全体を支えていけたらと思っています。

「発酵」をテーマに、
新しい食文化を地域を越えて共創する

チームYYTプロジェクト
金澤 佑泉さん
境 悠作さん
磯島 武史さん



金澤さん
佐原と神崎の繋がりを模索していた自分にとって、「発酵」を軸に様々な人たちと出会い、新たな可能性が広がりました。まず同じテーマの磯島さんと初日に隣同士になり、自然とチームの流れが生まれました。そこに境さんが加わってプロジェクトの成功に寄与したと思います。第4期では「平将門」で香取・成田・神崎を結ぶツアー構想も生まれました。次世代への継承や、歴史の深掘りなど、今後の展開も楽しみです。

説を実験していくのは楽しいですし、他の地域とのつながりも広がりました。今後は「47都道府県・発酵ピンチョスマップ」の構想を実現したいと考えています。実りある挑戦でした。

磯島さん
地縁も血縁もない立場で初めて参加し、地域の関係性や課題の複雑さを実感しながらも、チームで受賞できたことは良い経験になりました。ビジネスでも米調達の新たなネットワーク構築につながっています。今後は「ふるさと住民票」制度などを活用し、関係人口として継続的に関わるスタイルを模索していきたいと考えています。発酵ピンチョスを起点に、地域資源を可視化し、多拠点的つながりを広げていくことが目標です。

ファン声

震災を機に「IT業界から地元・佐原へ戻り、実家の梨農家を継ぎました。労力の大きさや担い手不足に苦労しながらも木への愛着から続けたいと思っています。現在はドローン講習の講師も務め、スマート農業の推進にも関わっています。」

佐原のあしたPROJECTには偶然千葉日報で募集を見かけて参加。地域の熱意に触れ、前向きな気持ちになりました。特に第3期の高校生たちの素直で分かりやすいプレゼンに感動し、地元で挑戦する若者たちに希望を感じました。今後は、彼らの発信力を生かす場や、人のつながりを可視化する仕組みが広がってほしいです。

第1期受講生
高はし梨園園主
高橋 章浩さん



第2期受講生

んです。実際にプログラムを受講する中で、中間発表に向けて怒涛の2週間があり、佐原信用金庫の水野隆晴さんや塙HOUSEさん、Kiiのあらいきよてるさんからの継続的な壁打ちや伴走がとても励みになりました。佐原のあしたPROJECTは、私にとって思いを実行に移す「トリガー」であり、「背中を押してくれる場」です。この地域は川向こうの潮来側との関係も深く、前川あやめ園を訪れたり、いたこミズベデザインさんとのコラボでSUP体験を開催しました。「水郷十二橋」と冠した名前に込めた想いを体現するため、潮来側との連携もいっそう深めていきたいと考えています。これからも親として、実践者として、地域に関わってきたいです。

選択テーマがきっかけに
子どもたちと踏み出した一歩
水郷十二橋 田んぼのがっこう
増田 直也さん

佐原のあしたPROJECTも参加して3年目になりました。改めて振り返ると、自分の子どもと一緒に関われる活動を通して、地域とのつながりを少しずつ取り戻してきた実感があります。「田んぼのがっこう」では、田植えや稲刈りのイベントから、地元の子どもや保護者、事業者ともつながる機会が生まれました。自分の家庭の都合と両立できる形で、無理なく続けられる活動のあり方を模索してきたつもりです。プロジェクトに参加したきっかけは、「利根川以北の地域活性化」というお題でした。通勤族としてあちこち移り住んできた中で、地元に対して何もできていないという後ろめたさがずっとありました。でもこのテーマを見たとき、「今なら一歩踏み出せるかもしれない」と思った

幼馴染と挑む、佐原の新名物
「すいぞう」の発信

佐原すいぞうプロジェクト
今泉 麻美子さん
鈴木 奈保子さん
大里 江里奈さん



第2期受講生



「豚のすいぞう（豚臓）」をPRするチームは、佐原出身の幼馴染3人組から始まりました。全国でも珍しく、佐原にはすいぞうを日常的に味わえる店が3店舗あります。傷みやすいためボイルで提供されるこの食材を、新たな佐原名物として広めるべく、最近は月に1度の500円メニューなどの販売を展開しています。それぞれの得意なこと、やりたいことを持ち寄り、知らないお客さんにも「すいぞう」を知ってもらえるのが楽しいです。受講のきっかけは、もともと3人で「佐原で何かしよう」という思いを温めていたから。「これをやりたい!」という強い動機はありませんでしたが、ゲスト(特に佐藤穂奈美さん)の魅力的な話に共感し、楽しんでやろうとい

う気持ちになりました。他のチームからもヒントをもらいながら、自分たちの「やりたい」を言葉にすることで、前に進むきっかけになったと思います。「飲み代を稼ぐ」くらいのペースで、時にバカなふりも交えつつ(笑)。また講座を通じて地域の人との出会いが広がり、よい刺激を受けて本業でも昇進するなど、人生に変化が生まれたメンバーもいます。これまで続けてきたことで、母としても地域との関わりが深まり、世代を越えたつながりも自然に育っていますね。楽しいからこそ活動が続く、仲間も応援も広がることを学ぶことができました。



第3期受講生



課題テーマだった「腹切り様」の物語も稲村美月さんによってアニメ化された。

以前からビジネスコンテストに参加したり、文化財のようなものを題材に、商品をつくりたいと考えていました。ネットで「文化財」というキーワードで調べていて佐原のあしたPROJECTを偶然見つけ、佐原信用金庫さんの課題の内容が自分の関心と重なっていたことから参加を決めました。実際に取り組んでみて、地域の方と一緒にものづくりをする楽しさや、対話の中からヒントを得る経験が重なっていきました。「香炉形顔面付土器」は想像以上に売れて、生産が追いつかないほど。黒字で継続できていることも大きな励みです。もちろん、この事業だけで生計を立てるのは難しいですが、「やりたいことが形になる」と

いう貴重な経験ができてとても楽しいです！講座の中では、歴史の久保健治先生の話がとても印象に残っています。佐原という町が、昔から外の人や文化を受け入れてきた背景を知り、この町で私のような外の人間が活動できる土壌があることに納得がきました。今は、小見川地域に伝わる「腹切り様」のアニメなどの展開を広げるか、この町でさらに深めていくか、少し迷いながらも、続けていくことの価値を実感しています。もしこの出会いが1年ずれていたら、きっと参加できなかった。そう思うと、このタイミングで動けたことが何よりもありがたく、これからもプロジェクトを育てていきたいです。



第3期受講生

以前参加した地元の高校の文化祭で、軽音部の生徒たちが見せた熱いパフォーマンスに衝撃を受けました。普段は控えめな印象だった彼らが一気に弾ける姿を目の当たりにし、「このエネルギーを地域に広げる機会をつくりたい」と思ったのが「軽音フェス」立ち上げの一番のきっかけです。当日は音響セッティングにも力を入れ、地域の方々を含めて200人近くが来場。高校生たちは全力で演奏を楽しみ、アンケートでも「また参加したい」「最高の思い出になった」という声が多く寄せられました。今の高校生は、ある程度枠組みを用意してあげると力を発揮しやすいという気づきがあり、場を設けることで強く輝くことを実感しました。

講座の中では、佐原ではなかなか出会うことのない特別ゲストの話や、合宿や交流会などの場が特に印象に残っています。企画段階からイベントに特化したアイデアのブラッシュアップを手伝って頂いたり、資金面でも支援を受けることができました。こうした具体的なサポートと、お互いに挑戦を応援し合う環境が整っていたからこそ、個人では実行できなかった大型イベントの開催につなげることができたのだと思います。今後は音楽だけでなく、演劇やアートなど他の表現活動にも広げ、より多様な若者たちが地域に関わるきっかけを増やしていきたいと考えています。



第3期受講生



私はもともと地域に興味があったのですが、将来それをどう活かすかは全然分かりませんでした。そんな時、先生から佐原のあしたPROJECTを紹介されて、「ちょっと話を聞いてみるだけ」と思って参加しました。最初は人前に出るのも苦手でしたが、楽しそうに発表している2期生を見て「この、いいな」と思ったんです。特に「すいぞうチーム」が印象的でした。活動ではカツ丼を食べ歩くことから始めて、香取の魅力をもっと知りたいと思います。まだ自分からお店に行くのは勇気がいりますが、「まずは食べてみる」ところから。受験が終わったら仲間と一緒に本格的に動きたいと考えています。

講座で一番印象的だったのは「まち歩き」で、ただの板に見えていたものが、かつての郵便局の名残だと教えてもらったり、自分一人では見えなかった地域の歴史や物語に触れられて、もっと歩きくなりました。少人数の班活動が中心だったので、自分を出しやすく、友達とも距離が縮まりました。大人の方とも自然に会話できて、普通の高校生活ではなかなかできない経験ができたと思います。この講座は、勇気がなくても始められるところがすごくいいなと思います。話を聞くだけでも歓迎してくれるし、私みたいに最初は不安でも、「やってみようかな」って思ったら、ぜひ一歩踏み出してみてください。



第3期受講生



Memeのイメージイラスト

正直、ここまで人生が変わるとは思っていませんでした。本当に有難くて。それだけは言えます。元々、成田で地域コミュニティづくりに取り組んでいて、次の拠点をどこに広げようかと模索していました。そんな時、たまたまSNSで見かけたのがこのプロジェクトの募集。「なんか、ここなら話を聞いてくれそうだな」って直感でした。実は過去に他のビジネスコンテストに出たことがあるんですけど、収益性とか新規性とか、そういう「正解」っぽいことがばかりが評価されて、何かしっくりこなくて。でも、佐原のあしたPROJECTは「あなたが本当にやりたいことは何？」という問いを真正面から受け止めてくれる場所でした。

講座の話もすごく深くて、歴史の授業や地域のプレイヤーの話、地元の人との関わりが全部自分のビジョンに直結してくる感覚がありました。佐原なら、自分が目指している「誰かが一歩を踏み出せる場」を本気で創れるんじゃないかって。気づけば、成田の拠点を閉じて、佐原に引っ越して、新しいプロジェクトを始めました。今構想しているのは、子どもや若者、地域の人、エネルギーを持った人たちが集結する場所。何かが生まれ、チャレンジャーが増える場を作りたい。単なるレンタルスペースじゃなくて、ビジョンを持ちつつ、間違いなく成田よりも2歩3歩ステップアップしていきたいです。



いなえの魅力

「佐原」の「佐」をほどいて「いなえ」。佐原みらい運河株式会社運営するこの複合施設は、明治に建てられた町屋2棟、土蔵、洋館、倉が中庭でつながり、個別相談会や「フリコールド展」といったイベントスペースとして、度々利用されています。

甘味処のかき氷は、一般のお客さんからも絶大な人気を誇り、ミッドタウン八重洲に限定出店したことも。口の中で綿あめのようにほだけてゆく柔らかい食感を、ぜひご賞味あれ。



関係者の声

佐原のあした



特別協力

地域づくり

特定非営利活動法人 佐原アカデミア 久保 健治さん

佐原のあしたPROJECTは不思議な空間です。年齢や地域を超えて人々が集まります。特に決まったルール也没有。でも、みんなに共通するのは佐原のあしたを考えていること。参加者たちはそれぞれの「佐原のあした」を思い描いています。ですが、このプロジェクトに関わる中で「佐原ってこうだよな」とみんなが感じ合う瞬間がある。あしたを考えるために過去をみつめ、そして今が見えてくる。そういうプロジェクトだと思います。これからも多くの仲間が増えることを期待しています。



商工会

佐原商工会議所 会頭 石井 良典さん

誰でも自分を育んだ地域や、交流している地域が持続可能な地域としてあり続けることを願っています。地域持続の為の様々な取組みとして、地域を担う人材育成である佐原のあしたPROJECTがスタートし、4年目を迎えられました。地域を見つめ課題を整理する力、地域や仲間たちと対話しながら物事を推進する力、そして具体的に実践する力を養い、地域の為の想像力を培い事業を創造する力を育むことを、佐原の地で実践されていることに敬意を表します。地域の産業振興に繋がるこの取組みを当会議所も一層応援して参ります。



後援

教育機関

教育機関

千葉工業大学 教授 / 建築家 田島 則行さん

佐原のあしたPROJECTが始まったときから、その趣旨に賛同し、大学の研究室としても参加しております。佐原という土地に関わる中で、学生らは住民の方々や他の参加者と交流をしてとても有意義な体験をさせていただいています。佐原には歴史的な魅力と、その観光地としての可能性を感じる一方で、人口減少にともなう空き家も増加して沢山の課題に直面しています。そんな中、空き家を「空間資源」として有効活用できるよう、このプロジェクトを通じて様々な可能性を開いていきたいと思っています。



協力

千葉大学大学院社会科学研究院 教授 関谷 昇さん

佐原のあしたPROJECTは、地域の諸資源と多彩なアイデアや技術とを結びつけ、新たな価値を創造していく場である。その特徴は、様々な個性を持った人たちが出会い、学び、各々の企画を練り上げていることであり、また地域資源の潜在的な可能性と丁寧に向き合おうとしていることである。この二つがさらに深掘りされていけばいくほど、他にはない固有な取組みが育っていくにちがいない。これからどんな提案が出てくるかは未知数であるが、古さと新しさ、地域の内と外が交わり、佐原の可能性がさらに引き出されていくことを期待したい。



協力

株式会社 # IT

株式会社 エヌアイデイ CX事業戦略部 創発戦略室 阿部 学さん

日ごろ佐原のあしたPROJECTをご支援いただいている皆様に深く御礼申し上げます。エヌアイデイは佐原で創業したITの企業です。1967年に佐原駅近くの空地に建てた粗末な小屋に、わずか数名の社員でスタートした会社は、この地域とともに歩んできました。人が真ん中のしあわせな世界を知恵と技術で拓いていく「ヒューマンウェア」を企業理念とし、地域とそこに住む人々の暮らしを大事にしています。

佐原のあしたPROJECTはまさに、地域で活躍する「ひと」を育成するプログラム。人づくりで佐原、香取を元気にしたい、というエヌアイデイの想いが詰まった挑戦です。ここは、地元の方々はもちろん、大学生や高校生、企業の若手人材から、まだまだやるぞと若い気持ちと経験を兼ね備えたシニア人材まで、佐原を愛する全ての人々による創意工夫と実践の「場」となっています。



主催

金融

佐原信用金庫 地域金融推進部 大坪 弘明さん

第1回目から主催していたエヌアイデイさんに本プロジェクトにお誘い頂いた時、「旧規格(車)で会いましょう」とか「屋上でサウナ」等、思わずニヤッしてしまう企画ばかりで、「なんか楽しそうだ…」と単純に私の興味本位で参画させて頂いたのを記憶しております(笑)。

それまで金融機関の創業支援は、既に決まっている事業に対して市場性等を評価して融資する金融面からの支援が殆どですが、ソーシャルビジネス(地域課題解決型事業)を参加者と一緒に考えて実践する共創型のスタイルはとても斬新で、他の地域にもない独創的なビジネススクールと感じています。

参加者は一般社会人だけと思いきや、お堅いはずの公務員の方や、高校生から大学生までと千差万別です。次から次へと出てくる斬新なアイデアのおかげで、凝り固まっていた私の思考回路はすっかり解されています。昨年度は「香炉型顔面付土器のミニチュアガチャ」が事業化する等、益々目が離せない佐原のあしたPROJECTに是非ご期待ください！



主催

こんな人も
関わっていました



千葉工大チーム



國學院大学チーム



佐原のあしたPROJECTの特徴の一つが、複数の大学が関わり、相互により刺激をもたらしていることです。千葉工業大学の学生さんは、建築の実証実験を佐原で行っているほか、運営事務局もサポートしています。ほかにも、津田塾大学、國學院大学など、観光をテーマにした発表も毎年の定番になっています。



後援

香取市 # 経済

香取市役所 生活経済部長 平野 靖さん

佐原のあしたPROJECTでは、これまで数多くの地域を元気にする実践プランが提案され、今後もどんなアイデアと出会えるのか楽しみです。またそのアイデアが実際に事業化されていることは大変素晴らしい取り組みであると思います。

このプロジェクトを通して、受講生同士の交流が行われ、新たな連携が生まれることにより、地域の人材育成や新たな事業の創出、そして香取市の活性化につながることを期待しています。市としても、地域の様々な課題解決に向けた取り組みに対し応援していきたいと考えています。



協力

不動産活用

株式会社 リビング&ルーム 代表取締役 小森 康雄さん

賑わいを作り出すのもよし、暮らしが楽しくなる工夫を考えるのもよし、面白そうな人を集めるのもよし。こんな未来はちょっと面白そうだを集めて実践実験。佐原の未来を作るモノ、コト、人のタネを集めてちょっと蒔いてみよう。それが佐原のあしたプロジェクト。そんな明日のタネを蒔いたら隙間だらけになってしまったこの町で皆が集う大きな木に育つかもしいいし、個性的な樹木が集まる魅力的な森になるかも知れない。プロジェクトで生み出されるワクワクは佐原のあしたの暮らしの豊かさを作り出す事でしょう。



一般社団法人 # 空き家の利活用

一般社団法人 オンラア未来会議 代表理事 柳堀 裕太さん

「地方で新しいことを始めるのは、本当に奥が深い」。これは私が常に感じていることです。特に、その土地に根づく人間関係や文化をリスペクトする気持ちなしでは、どんなに良いアイデアも地域に受け入れられるのは難しいでしょう。だからこそ私たちは、都会の成功事例をなぞるのではなく、地域の文脈に深く寄り添うことを何よりも大切にしています。

結局、まちづくりの主役は「人」なのだ実感しています。佐原のあしたPROJECTには、挑戦したいと願う人々の背中を押せる、そんな場所になるポテンシャルがあると信じています。何を目指し、挑戦する方々をどのように応援できるのか。そのビジョンを、より明確に描き、アクションすることを一緒に出来たらと思います。



メンター

株式会社 # 不動産活用

株式会社 Coelacanth 代表取締役 佐藤 穂奈美さん

佐原のひとのつながりが生む、事業のうねりにいつもわくわくしながら応援させて頂いています！アイデアからの実行力を支えているのは、夏秋2回の盛大な祭りを絶やすことなく続けていける地域の地力の高さなのだいつも惚れ惚れしています。ローカルプロジェクトを楽しむ最大の秘訣は、まずはやっている本人が楽しむこと！ たのしい人の周りには、たのしい人が集まってくると信じています。軽やかに、たのしみながらプロジェクトを進めてみてください！



一般社団法人 # 空き家の利活用

一般社団法人 いたこミズベデザイン 理事 菊地 悠平さん

第三期で講師をつとめました。潮来・成田・神栖など、地域の枠を超えた参加者が集っていて、多様な視点とボーダーレスな空気感が生まれていましたね。僕自身、講座をきっかけに佐原に家族でも行くようになりました。活動を持続させるには、事業づくりを目的化せず、「好き」を追求して、面白がりや共感に重きを置いて活動することが重要です。受講生には自己表現を深めてファンを増やしながらか、続けていってほしいです。



講師

サポーター

空き家の利活用

塙 HOUSE オーナー 谷本 真里さん

このプロジェクトに関わらせていただき、仲間が増えたことが一番の励みです。塙HOUSE は主に増田直也さんの「田んぼのがっこう」の実践の場として、ご関係者の懇親の場としてご活用いただいております。第一期から、この取り組みに注目してきました。大なり小なりそれぞれのアイデアが、ちよっとずつカタチになっていく。その蓄積が佐原のひいては水郷の魅力の新たな発見や再発見に繋がっていることを、回を重ねるごとに感じております。このプロジェクトに携わる皆さまの一步が、佐原のあしたへのさらなる大きな一歩になりますよう心よりお祈り申し上げます。



佐原な
Column

香
取
日
和



今、ここに「ある」を見つけよう。

あらいぎよてる

第三期の初回講座からずっと心に残っている言葉がある。「ないものねだりの消費者」から「あるものみつけの当事者」へ。これは第四期からのテーマ「プリコラージュ」に通じるとても大事な視点だ。また、この考えは時間の捉え方、その地域での過ごし方にも当てはまる。

ある日の講座の終了後、関東では雷雨があり、佐原でも一時激しい雨となった。しかしその直後、空には見事な夕焼けが広がっていた。

aikoの『桜の時』という曲に「降ってくる雨が迷惑で、しかめっ面したあたしに、雨上がりの虹を教えてくれた、ありがとう」という歌詞が登場する。

雨は迷惑な存在に思えるが、虹は雨上がりにか現れない。虹も、桜も、天の川も、本来すべての人に見るチャンスが与えられている。

しかし、忙しい忙しさと嘆きながら、ビルの中で液晶を眺めていては、それらの美しい風景を見ることができない。

時間には限りがあり、その日、その瞬間にしか訪れない絶好のタイミングというものが存在する。プロの写真家は、その一瞬を逃さない。場所、時間、角度。当たり前の風景から奇跡の一枚を切り取る力があるのだ。

僕は、佐原を訪れるとき毎回ワクワクしている。何度来ていても必ず発見がある。熱気に包まれる佐原の大祭、加藤洲十二橋の地平線、夜の小野川沿いに浮かび上がる灯籠、様々なご当地グルメに、地域を愛する人たち。

こんなにたくさん魅力があるのに、さっさと帰ってしまうのは実にもったいない。

今度は季節や時間を変えて、もっとじっくり佐原を堪能してみよう。

「今日も素晴らしいかった」そう思える人生は、きっと楽しい。

佐原のあしたの これから

佐原みらい運河株式会社の落合真弘です。

私は、この春から佐原に移住し、佐原のまちづくりに関わるお仕事をしています。大学では教育を学び、教育分野で起業してきた経験もあり、この第四期からナビゲーターとして関わらせていただけることになりました。まだまだ佐原に引っ越したばかりなので、受講者の皆さんと一緒に佐原を学び、佐原を楽しんでいけたらなと思っています！

さて、今期の特徴は「探究型ワークショップ」です。私が全国の高校で探究教育を実施してきたノウハウを活かして、皆さんの興味関心を引き出し、楽しみながら学んでいただけるように設計をさせていただきました。

まずは、「自分を知る」ことから始まります。改めて自分について知った上で、佐原をさまざまな視点で見て、佐原の町歩きを通して、自分の中で「問い」を見つけ、その問いをたくさんの観点で深めていく。実践を伴いながら問いを深め、やりたいことを明らかにしていく。そんな学びの流れを意識して、講座を作らせていただきました。

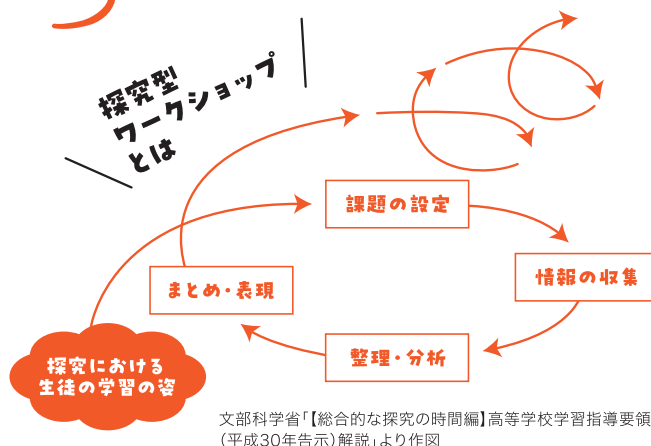


佐原に移住した
私がナビゲートします！
佐原みらい運河株式会社
落合 真弘

受講者の皆さんが、ワクワクするような探究に夢中になり、佐原が賑やかになっていってくれたら嬉しいなと思っています。



▲ 第四期の様子

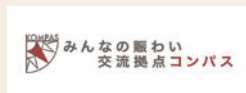


サポーター加入のご案内

佐原のあしたPROJECTの趣旨にご賛同いただいた皆様に、協賛いただく仕組みです。
私たちと一緒に若者たちの背中を押して、地域のあしたを創る人材を育てませんか。
詳しくは事務局にお問い合わせください。

- 一口3万円から(何口でも構いません)(1年間)
- 現物支給による協賛もお受けしています。(例: 公式イベントへの商品の提供)
- 10口以上ご協賛いただいた場合、最終発表会で冠賞を設定することができます。

現在のサポーターの皆様



サポーターのベネフィット

- ウェブ・チラシ・ポスター等の広報物に貴社のロゴを掲載します。
- 若年層の人材育成に積極的な企業として地域貢献やSDGS貢献をアピールできます。
- 講座や発表会、イベント、受賞者の実践など、関連イベントにご招待します。
- 佐原のあしたコミュニティに参加し、ネットワーキングを図ることができます。



佐原のあした 最新情報&お問い合わせ

最新情報やプロジェクトの様子は
HPやInstagramで発信中です！

HP



Instagram



講座について、サポーター制度についてのお問い合わせは下記にお問い合わせください。

佐原のあしたPROJECT事務局
sawara-no-ashita@ml.nid.co.jp

佐原のあしたPROJECT 関連企業

株式会社エヌアイディ

Nippon Information Development Co., Ltd.



1967年に佐原で創業したITソリューション全般を提供する上場企業です。ソフトウェア開発、システムマネジメント、先端技術領域などを手がけ、安定した経営基盤を築き、創業の地佐原での地域貢献にも力をいれています。

<https://www.nid.co.jp>

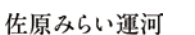
佐原信用金庫



1929年創業、佐原に本店を構え、成田市や千葉市、茨城県鹿嶋市などに16店舗を展開する協同組織の金融機関です。地域の主要産業である「農業の支援」や「観光振興」など、地域経済の活性化の事業に数多く取り組んでおり、持続的発展に広く貢献しています。

<https://www.shinkin.co.jp/sawara/>

佐原みらい運河株式会社



2018年に創業した、佐原を拠点とした「地域の未来づくり」を目指す会社です。エヌアイディグループの100%子会社で、ICT技術を活かしながら、地元の文化・人と連携した取組みを融合。“ずっと好きでいられるしあわせ”をテーマに、佐原を訪れる人も住む人も「また来たい」「ずっと暮らしたい」と考える未来を創ります。
古民家を改装した甘味処ギャラリー「いなえ」や佐原のあしたPROJECTの運営を行っています。

<https://sawara-mirai-unga.com>

関内イノベーションイニシアティブ株式会社(Kii)



神奈川県横浜市で2010年に設立された、フューチャーセンター機能と社会起業家のインキュベーション機能を併せ持つ「まちづくり会社」。創業時よりソーシャルイノベーションを加速するため、社会起業家の一步を後押しする支援を一貫して行っています。

<https://kii-net.jp>